

大阪府様

スマートシティサービスのご提案

クラウド型インフラ点検・写真台帳システム

株式会社Andeco

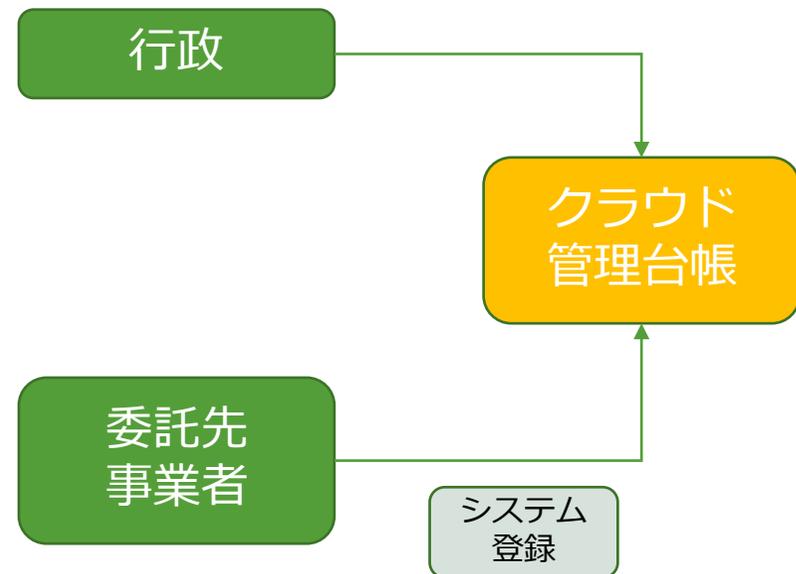
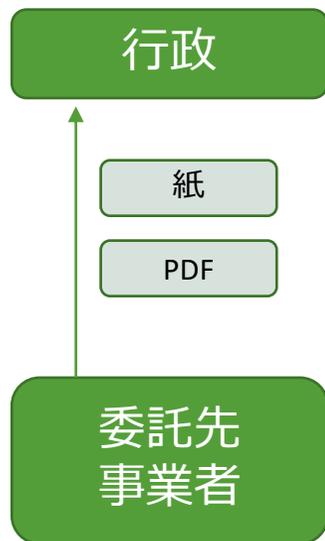
行政と点検事業者とのデータ共有

■従来の形式

点検業務や調整業務の委託先からの納品時は、紙（印刷）とPDFなどの電子データ

■提案する形式

点検業務や調整業務の委託先からの納品時は、システム上で記録・納品



メリット

エクセル等があれば、編集・作成可能
新たな投資が不要

デメリット

データ管理が属人的になりがちになる
データ蓄積での検索・分析が困難

メリット

作業毎に随時最新情報が更新される
データの蓄積・検索・分析が容易になる
長期にわたって、システム管理が容易になる

デメリット

委託先がiPadなどのタブレット利用が前提

写真帳票のタブレット化

■点検記録を作成する上で、エクセルの写真帳票づくりが大変。

- ① 建物所有者が、長期修繕計画に着手。
- ② 調査は、建物をくまなく回って、写真を撮影する。
- ③ デジカメで撮影した写真を、エクセルに張り付けていく。
- ④ 写真が示す部位の名前、劣化具合などをコメントをつける。
- ⑤ 今回工事対象となる場所を、経験から決定する。
- ⑥ エクセル（別ファイル）にて、建物の部位別の面積を投入する
- ⑦ 劣化具合に合わせて、リニューアル対象の工事内容を定める
- ⑧ リニューアルに必要な工事単価を投入していく。
- ⑨ 全体の工事額を算定する。
- ⑩ 必要な工期を算定する
- ⑪ 積算した費用、現地調査の写真レポートを基に、施設オーナー（決済者）に説明し、工事の承認及び予算化を行う。

赤色部分が、ルーティンワークであり、これをまずはじめに、
システム化での自動化、学習機能で精度向上を行い、単純作業を最小化する。

青色部分は、高度なノウハウ部分であり、これを学習機能で、
時間をかけて精度を向上を行う。

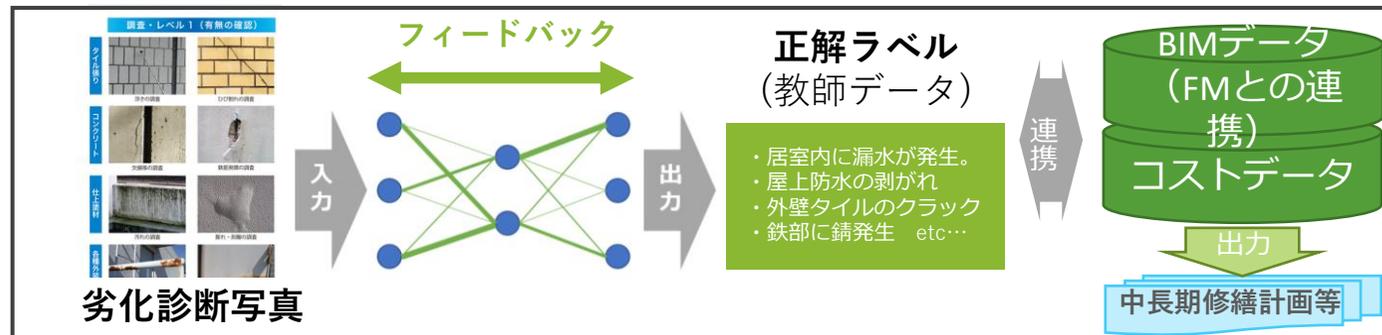
提案システム 建物点検システム

■タブレットを基本とした長期修繕計画作成システム



- ① 現地調査の写真を撮る
- ② 自動で、レポート化
学習によって、コメント、テキストの紐づけ
- ③ 劣化度×数量・面積×工事費用からなる
積算によって、長期修繕計画の作成

(クラウド化することで、人による補正を学習し、
精度の向上、常に時勢を踏まえた積算へ進化)



プロダクト

■ サービスの強み・特徴

修繕計画の調査フェーズの写真撮影・管理に焦点。

■ 競合との比較・優位性

施工・工事写真管理ソフトは市場が明確で先行者あり。
修繕計画などは、ニッチのため、専用ソフト開発は遅れている。技術ノウハウ+画像の学習で優位性を持つ。

■ ユーザーインサイト

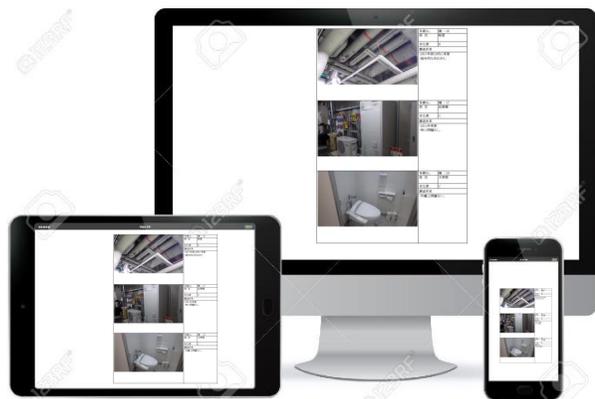
写真を撮影して、エクセルに貼り付け
コメントを打つという作業への苦痛。
熟練技術者の高齢化と若手技術者の減少

全体構成

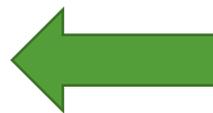


■クラウドサービス

初期は、単純なデータ保管・共有からスタートし、将来的にはAI用サーバを組合せ、画像ビッグデータの機会学習により、テキストの紐づけ精度の向上、修繕費用積算の自動化などをめざす



システム提供



SaaS型
月額利用料

- タブレットを基本としたソフト
- ① 写真を撮る
- ② レポートの作成
(テキスト、コメントの付与)
- ③ (将来) リニューアル費用の積算

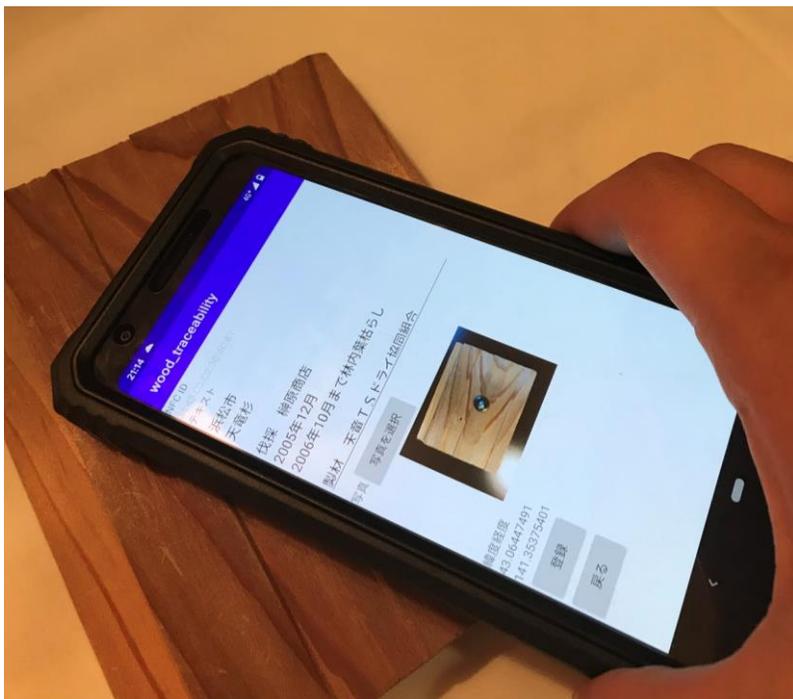


■ユーザーの区別

- ① 管理者 (役所)
- ② 点検民間委託事業者
(対象物件のみ入力可能)
- ③ 工事入札事業者 (対象物件のみ閲覧)

その他

穴開きNFCチップを自社開発。設備管理などと組合せて実施。機械設備などへタグを設置。



その他

3D空間撮影システム。メンテ頻度の高いスペースを
デジタルライズして、作業指示の効率化。

